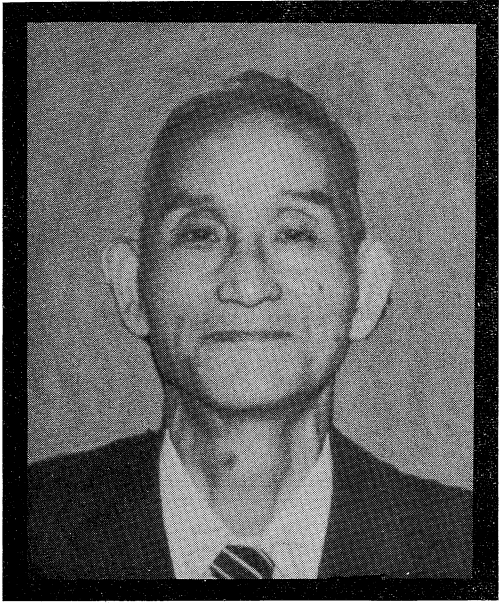


第5回定期総会にご参加を

とき 6月10日(日)午後1時
ところ 金沢郵便貯金会館
記念講演 法政大学教授 吉田秀夫氏

石川保険医新聞

発行所 石川県保険医協会
金沢市有松2丁目2番27号
(0762) 43-6773
発行人 勝木育夫
印刷所 ユーアイ印刷
(会費月額 3,000円)



前会長

早瀬光先生を悼む

四月十四日、早瀬光前石川県保険医協会会長が亡くなられた。先生は確固たる信念のもとに、石川県における保険医協会の創立と育成にこれまであらゆる犠牲と労苦をいとわず、凄まじいまでの情熱を注いでこられました。先生をおいて今日の協会を語ることはできません。ささやかではあります。この追悼号に亡き前会長への感謝をこめ、あわせて心からのご冥福をお祈りしたいと思います。(編集部)

弔辞

会長 後藤田博之

本日ここに、石川県保険医協会の設立者であり、開業保険医の偉大なる先輩である、早瀬光先生の葬儀にあたり、協会会員三百余名を代表して深い愛惜の情と、尊敬の念をこめてお別れの言葉を申し上げます。

かえりみますれば、今から三十有余年前、敗戦と云う我が国の一大転期によって大きな社会変革が起りました。同時に国民皆保険の名のもとに医療制度も大きな転換期を迎えたのであります。そして開業保険医は保険診療と経済審査のわくの中で、数々の困難と圧迫に苦しんで参りました。こうした医療環境の中で、我々保険医の生活と経営をどう守るべきか、又矛盾する保険医療制度をどう改革すべきか、思考錯誤をくりかえして参りました。この時、事志を一つにする保険医数人が集り、石川県での保険医協会発足の足がかりとなり、早瀬先生がその代表者となられたのであります。昭和四十六年春の事であり、以後、先生を中心として活動を行い、昭和五十年には会員百余名で保険医協会が正式に結成され、その初代会長に早瀬先生が就任されたのであります。そして昨年六月、石川県医師会理事就任を期に、おしまれつつ当協会会長を辞任されました。

略歴

大正四年三月十四日生
昭和十六年三月 満洲医科大学卒
昭和十六年六月 金沢医科大学第一内科病理学教室に入局
昭和二十一年五月 現在地にて開業

昭和四十五年四月 石川松任郡市医師会理事、同四十九年四月、副会長に就任、五十二年三月に至る。
昭和五十年五月 石川県保険

この間先生には、初外的にも内部的にも会の運営発展に偉大なる指導力を発揮され、数人で発足した会が、現在の三百余名の大きな力にまで成長させられたのであります。早瀬先生は、誰れにも愛され、慕われる、温厚・誠実な人柄でありました。しかし、その内に秘めた反骨精神は若い会員もびくつきする程でありました。時には、事志ならぬ挫折感に沈む我々を叱咤激励され、先頭に立って行動されたものであります。先生は又、学問に対して深い情熱をもつて接しておられました。毎回の研究会に於けるあくなく追求の姿勢には、それは若き若い学徒の姿を思わせました。私達の範となるものでありました。

早瀬先生、私達は先生が示された正義感と学問に対する情熱をしっかりと心にきき、今後一層努力することをここにお願い致します。先生もどうぞ草葉の蔭から、あたたかく私達を見守って下さい。早瀬先生、どうぞやすらかにおやすみ下さい。
さようなら……
昭和五十四年四月十六日

医協会会長、五十三年六月に至る。
昭和五十三年四月 石川県医師会常任理事に就任、現在に至る。

落花春愁と申しますが、花も散り行く春を惜しみつつ、やがて若葉の候を迎えようとして今、突如先生の訃報に接し、ここに石川松任郡市医師会を代表してお別れの言葉をのべようとは信じられないうまに今御霊前に佇んでおります。

先生は花も綻ぶ頃には医師会にも復帰しようと堅く誓っておられたのもつい先頃のことでありました。そのお言葉に信じてつひつひと御全快の日を待ちわびていた私共には何と悲しい対面でありました。

お別れの言葉

石川松任郡市医師会長

登谷栄作

脳まされながらも第三の人生が始まったのであります。一度ならず二度の試練はやがて先生を菩薩の境にかりたてたのであります。以来、松任ライオンズクラブ会長として地域の奉仕に、他方石川県保険医協会を創設し、初代会長として御活躍になり、その後は石川県医師会理事として地域医療の向上に東奔西走の日々でありました。それこそ己れを捨て他に利する菩薩行でありました。しかしその間も病魔は人の心をよそに容赦なく進行しておったのであります。昨秋より先生には喉に体の不調を訴えられ、遂に金沢医科大学病院に入院され、時に退院再度入院と繰返しながら遂に不帰の客となられたのであります。

要職につかれ、地域文化・教育の振興に大きな足跡を残されたのであります。他方、石川松任郡市医師会理事、更に副会長として会の運営は元より地域医療の充実と御活躍になられたのであります。

昭和四十九年の春、突如第二の不幸が訪れたのであります。生来健康そのものであった先生が胆のう炎におかされ金大附属病院に入院されたのであります。幸い手術も順調に終了退院されたのであります。今こそ静かにお休み下さい。

発病以来五年間、先生は不治の病と知って知らず、一時の休養を願う御家族の〇もよそに、病身に白衣をまとい人の命を尊ぶのあまり自己の病を顧る暇のなかつた先生、これが医師の宿命でありました。今世界一の長寿国になり得た日本の医療にも先生の如き尊い代償が払われていることを忘れてはなりません。六十五歳になつたら余生を送りたいと願いながら、それも果さず逝かれた先生こそ、多くの人の不幸を一人で担って逝かれたのであります。今先生の在りし日の温顔を思い浮べ会員一同御霊前に額づいております。先生の残された数々の教訓をしっかりと胸に秘め先生の念願であった医療保険制度の抜本改正への努力をお誓い致します。

生前一時も尻の温る暇のなかつた先生、本当に永い間御苦勞様でした。今こそ静かにお休み下さい。

早瀬先生の訃報に接した時には、以前から相当お慰めはきいてはいましたが、そんなに早くとも思っていなかった。先生を始め知ったのは保険協会が準備会から正式に発足する少し前のことでした。保険診療に対する官僚の圧迫と、それに対する医師側の弱さについて語られた時の先生は、診療に対する確固たる自負と、それを制限しようとするものに対する烈しい闘志に溢れていて、私のように萎縮しがちなものにとつては非常に勇気づけられたものでした。

そのうえ、協会発足以来毎月の理事会や研究会は勿論、保団連幹事会、中部ブロック会議と、かなりの休日を含めて協会のために充てられ、それも医師会やライオンズクラブ等他の活動もやりながらのことです。本当に先生の御活躍は目を覚ますばかりでした。

先生の遺志を継いで

保団連本部や他の協会から送られて来る多くの機関紙や資料等をよく読んでおられ、それらをふまえての発言には非常に説得力がありました。石川県保険医協会が今日まで伸びて来たのは多くの人々の協力によるものですが、先生の力が非常に大きいことも明らかです。

昨年四月に県医師会理事になられて、協会の会長を辞められる時何かと両立させていただけぬものかと非常な論議を呼びました。こんなことなら私も、もう少しでも働いて先生にいくらかでも楽をしていただければよかったです。うのも後の祭りです。

謹んで先生の御冥福をお祈りするとともに、私も一層協会の発展のために努力することを決意する次第です。

(副会長 勝木育夫)

先生の遺稿集から

準備会会報の 発刊にあたって

私が大学を卒業し、内科を専攻しようと思ひ、金沢大学谷野内科の教室に入ったのは昭和十六年の春でした。

その後、大東亜戦争が勃発し、軍医として、陸軍病院・師団司令部等歴任したが終戦となり、昭和二十一年父が亡くなり、その後を継いで現在の所で開業致しました。然し学位を取りたいと思ひました。当時患者が多くてどうにもならず、数年そのまま開業

をしていましたが、昭和二十六年、思い切つて金沢大学の病理の教室へ入局し研究生となりました。

その生活から開放されたのは昭和三十年の春でありました。その後、現在に至る約二十一年の歳月を経るにあたり、つくづく考えさせられることは、大学に於て学んだ医学が現在の診療にそのまま使えないことの矛盾があると云うことは私のみが味わう事ではなく、意欲を燃し大学を出た青年医師も同じだと思います。

何故ならば、日本は保険診療という枠にはめられ、医師としての正しい診療の自由が認められず、唯薬がどうとか注射がどうとか、規則がどうとか云つて、私共医師が日夜その枠にはめられながら、昼夜を問わず患者の診療に地域の保険医として従事して来ましたが、この私達開業医が一致団結し、その目的を達成する組織が、保団連であると信じます。ある人は、赤だとか又は左だとか云つておそれな

協会結成総会

開会の挨拶

わたくし早瀬でございます。保団連の会員になったのは五・六年前からです。昭和十六年に大学を卒業し、実際に開業したのは三十年頃です。当時の保険の指導、監査はいまと違って非常に厳しかった。私はそれ迄、いろいろと松任の地方行政にたずさわり、あまり勉強しなかつたもので、保険診療のやり方が分らず、毎年指導・監査に呼び出され、「詐欺罪」などと大変ひどいことを云われました。一時期医師をやめていく意欲を失なう程のひどさでした。

保団連の目標に向つて

第二回定期総会

本日ここに第二回総会を迎えるに当つて一言御挨拶申し上げます。昨年五月会員百余名をもって結成総会を開催して以来一年、五十有余名の新しい諸先生方の加入をみて、現在百五十余名の協会に発展を致しました。これ偏に役員の方の誠実な努力と、会員諸先生方の深い御理解と御支援の賜物と心から感謝致しております。昨今の開業保険医を取り囲く医療環境は、国民医療の現状と共に極めて厳しいものがあります。この時に当り、われわれは開業保険

協会の前途は明るい

第四回定期総会

石川県保険医協会が準備会から始まりまして約五年たつております。その間にいろいろの中傷はありましたが、中堅の方、若い方に入会していただいて非常に心強く思っています。この発展は将来ますます強いものになっていくことと思われ、医師会A会員の三分の一を越えましたので、これからが大事な時期だと思ひます。今後とも皆様のお力添えによりまして、大いに協会が発展していくことを望みます。

私はこのたび一身上の都合により会長を辞任し、本総会で新しい会長はじめ多数の協会展員が選出されることになりましたが、私自身も今後は監事として協会のお役に立ちたいと思ひます。新会長のものと協会のますますの発展を祈ります。

(昭和五十三年六月二十日付)

早瀬 光先生を偲ぶ

三重県保険医協会
会長 山 浦 久 治

たのではあるまいか。先生とは中部ブロック会議、保団連幹事会、総会又学習会等で再三お目に掛つた。特に一昨年五月、金沢を同じくして、先生郷土の宗教家暁鳥敏師について種々教えを受けたことは忘れ難い。又一昨年六月、わが三重協会の総会に遠路遙々

での中部ブロック会議には地元として何かと御世話下され、御接待を受けたことが昨日の如く鮮かに思い出される。昼食時に先生と卓

保団連代表として御来臨いただいたことも返らぬ思い出となった。

先生は石川協会の誕生と成育を見届け、昨年よりは

あつたと思う。先生御自身よりその御心境を承つた記憶がある。その時が先生に御目に掛つた最後であった。しかし今にして思えば、こ

のことは一層先生の心身を疲らせなかつたかと、残念でならない。

我々は先生の遺児石川協会の一層の発展と、先生がテコ入れされた富山準備会の協会花、更には福井にも協会の身を委せしめて中部ブロックの実をあげ、先生の労に報ゆるはなむけとしたい。先生も生前とかわらぬ温顔と微笑とを以て、それを待っていて下さるにちがいないと思う。

一九七九・四・一八
加賀のくに松任の町に藤波の花は咲くべし君在さずして 合掌